



知事コラム

## 佐竹敬久のさあ、やるど！

### 最愛の「にゃん」が天国へ

極めてプライベートなことで、しかも人の飼い猫が死んだ話など、どうでもいいよとお思いでしょうが、どうか私の悲しい心情をお察しのうえお許してください。

つい先日まで、我が家にはロシアのプーチン大統領から頂いたVIP猫「ミール君」を加え8匹の猫が暮らしていました。

ミール君以外の7匹の猫のうち、2匹は秋田市長時代に市長公舎の床下に住み着いていた野良でしたが、時々家の中にちゃっかり入り込んで来て、可愛らしかったことから家猫として飼い始めたもので、メスの「にゃん」とオスの「アシシロ」といいます。

また4匹は秋田市長公舎の屋敷に出入りしていた野良で、いずれ市長公舎は取り壊すということなので、可哀想と思い知事就任時に連れて来たもので、あとの1匹は知事になってから近所で死にそうになっていた子猫を拾ってきて飼い始めたものです。

先日、1番古くから家猫として飼っていた「にゃん」が亡くなってしまいました。

年齢は推定15～6歳位で、正月過ぎから痩せて元気がなくなり、獣医さんに診てもらっていましたが、甲状腺疾患というメス猫が罹りやすい疾患で、高齢なこともあり治療の甲斐なく、家族が見守るなか深夜に静かに息を引き取りました。

この「にゃん」は、ドアノブにぶら下がってドアを開けるし、人間の言葉が解っているのではないかと思うほど、呼びかけにも敏感に反応し、飼い主のひいき目でみても天才的に賢い猫で、しかも顔つきもキリッとした美人猫で、我が家の女王様という存在でした。

さらにメス猫でも極めて気丈夫な猫でした。

秋田市長時代に突然いなくなり、家族で必死に探しましたが見つかりません。

やはり野良の習性で自由の身がよくて出ていったのかなと半ばあきらめかけていましたが、1週間後に足を引きづり血だらけになって帰って来ました。

足の肉がそげ骨が見える状態で、たぶんハサミ罫に挟まれたのを足の肉がそげるという想像を絶するほどの痛さをこらえ、必死に脱出したのだと思います。

我慢強く治療を受け完治するまで半年近くもかかりましたが、再び元気を取り戻し、家族にとっては、可愛がっていた思い出深い存在の猫でした。

「にゃん」が亡くなってから、他の猫どもも何となく察してか、寂しい素振りを見せており、特に長い付き合いの「アシシロ」は寂しそうな鳴き声を出しています。

毎朝、ご先祖様の仏壇に手を合わせてから、「にゃん」の可愛かった頃の写真に、いつかまた天国で一緒に暮らそうね、とって手を合わせてから出勤する毎日です。

ところで、いずれ自分も天国に行けるように、悪いことはしないようにしょ？